

岐阜まち物語 ～第2幕～

特別公開！

「信長公の奥座敷」



2007年11月23日（金・祝）

10：00～12：00

岐阜公園は織田信長公が館を構えた地として知られています。ちょうどいまから 440 年前、信長公は美濃を治めていた斎藤道三の孫、龍興^{たつおき}を追放し、みずからの本拠をこの地に移したのです。それから 2 年後の永禄 12（1569）年、岐阜を訪れたポルトガルの宣教師ルイス・フロイスは、その記録の中で信長公の館を「宮殿」と称し、華麗な内部の様子を紹介しています。信長居館跡の入口部分は発掘調査の結果復元整備され、現在見学することができますが、館の姿や配置など居館の多くの部分はまだ謎のままです。

岐阜市では、建物の位置や構造を調べる発掘調査を開始しました。今年度は遺跡全体の概要を把握するために、最小限の調査区を設けて内容の確認を行っています。



イラスト：加藤由朗

岐阜市教育委員会
(財)岐阜市教育文化振興事業団



©岐阜市2006

信長の岐阜まち発祥440年

戦国時代の庭園跡か？ -2 区の調査成果-

調査区の西側 1/3 は、のちの時代に地面が削られているようでしたが、東側を中心に信長公の岐阜入城以降の時期（1567 年～ 1600 年）と考えられる遺構を確認しました。粘土層に川原石を埋め込んでおり、そのふちの部分には石列がみられます。礎石などは確認できなかったことから、調査範囲内に建物が建っていなかったようです。

このような作りは庭園の池裾部分^{いけすそ}にみられる「州浜」^{すはま}と呼ばれる石敷きに類似していることから、調査区周辺に水が流れていたか、池があった可能性が高いことがわかりました。その場合、川原石は州浜の石で、立て並べた石列は州浜の裾止め石に相当すると考えられます。

戦国時代の火災の痕跡、下層遺構（斎藤時代？）を確認

地面や川原石には焼けている痕跡はありませんでしたが、地面の下には炭・焼土の層が確認できました。石敷きなどの遺構はこの火災の後につくられています。遺物などによる年代確定はできていませんが、過去の発掘調査の状況などからみて、これは 1567 年（永禄 10 年）に信長が稲葉山城を攻略した際の火災の跡の可能性があります。その下では一段階古い時期の礎石の可能性のある石（斎藤時代？）などを部分的に確認しました。

小牧山城の山麓の信長館推定地や安土城の山頂主郭部分では、これまでに庭園と呼べる遺構は確認されておらず、もし今回の遺構が庭園の一部であるならば、初めて信長公の庭園遺構が確認されたことになります。またポルトガルの宣教師ルイス・フロイスの著書『日本史』には庭園に関する記述があり、その庭であった可能性も考えられます。

今後、庭園遺構である確証を得るとともに、その範囲や建物跡の確認、平坦地全体の性格などを明らかにするため、次年度以降も調査を行う予定です。

主な遺構

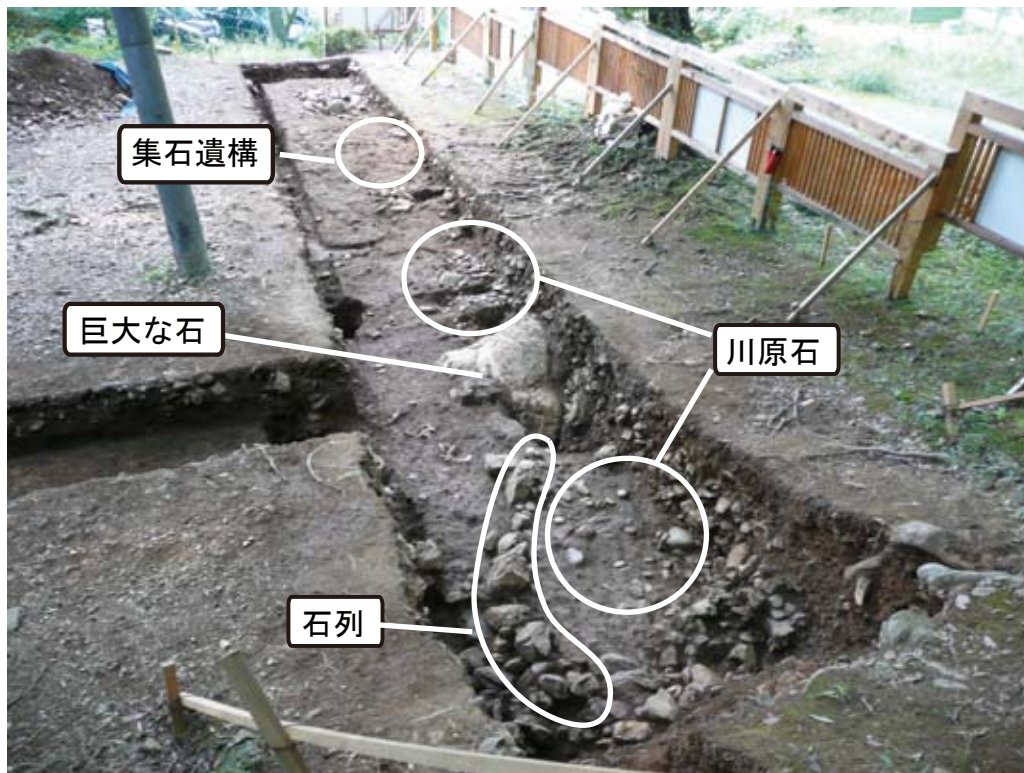
- 巨大な石** 南北幅 1.1m、東西幅 1.7m。戦国時代には現在の位置にあった。庭の一部として取り込まれていたと考えられる。
- 石列** 北西から南東方向に並ぶチャートの石列（約 2.5m分）
- 石敷遺構** 川原石を粘土に埋めて敷き詰めた遺構。州浜に相当する可能性が高い。
- 集石遺構** チャート、砂岩の石が集っているもの。庭石などの基礎の可能性が考えられる。

… この前廊の外に、庭と称するきわめて新鮮な四つ五つの庭園があり、その完全さは日本においてははなはだ稀有なものであります。それらの幾つかには 1 パルモの深さの池があり、その底には入念に選ばれた清らかな小石や目にも眩しい白砂があり、その中には泳いでいる各種の美しい魚が多数おりました。また池の中の巖の上に生えている各種の花卉や植物がありました。下の山麓にため池があって、そこから水が部屋に分流しています。そこに美しい泉があり、他の場所にも、宮殿の用に思いのまま使用できる泉があります。…

ルイス・フロイス『日本史』松田毅一・川崎桃太 訳



ポルトガルから来た宣教師
ルイス・フロイス（当時 37 才）



2区で見つかった遺構

川原石は砂岩・流紋岩が中心で、いずれも長良川でよく見られる石です。

川原石と石列、巨大な石

白線より上（北）に粘土が貼られている。電柱付近が池の中であった可能性がある。

用語解説

花卉（かき）— 草花のこと。

1 パルモ — 手を広げたときの親指の先から小指の先までの長さ。約20cm。



現在の岐阜公園内にある池の「州浜」。

池の水際に敷き詰めてあります。底には通常使われません。このような巨大な石が州浜から突き出ているような風景が、2区の周辺にはひろがっていたのかも知れません。

3区の調査 途中経過

3区上段の様子

東側には粘土層を確認、その上に石（チャート）が多く堆積しています。西側では粘土層の中に川原石が埋まっている状況を確認しました。

どのような痕跡なのか、現在確認しているところです。

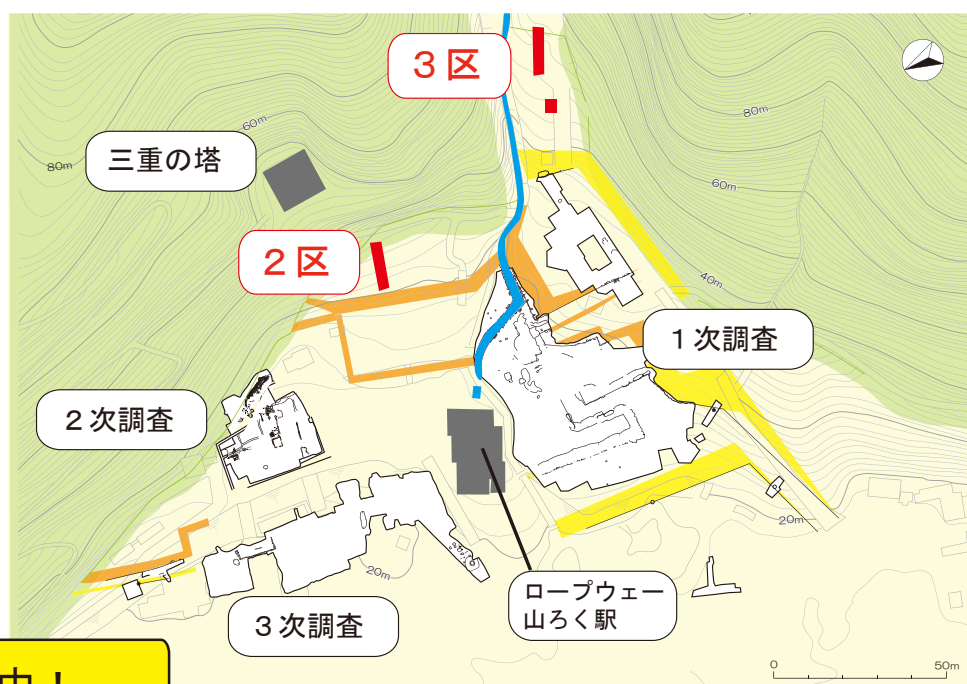


3区下段の様子

近現代の堆積の下に焼けた壁土が大量に含まれた層を確認しました。火災の跡の可能性が高いと考えられます。

遺物が見つからないので、年代が特定できていません。

今回の調査位置



発掘情報はブログで公開中！

<http://nobunaga-kyokan.jp>

問合せ先：岐阜市教育委員会 社会教育室
058-265-4141（内線6357）